

人と防災未来センター災害対策専門研修（秋期）実施結果

平成 16 年 10 月 11 日（火）から 11 月 18 日（木）の間に実施した「災害対策専門研修（秋期）」について、下記のとおり実施結果を取りまとめた。

1 コース別受講者数

マネジメント コースA	第1ユニット	11月9日（火）～11月12日（金）	15人
	第2ユニット	11月15日（月）～11月18日（木）	14人
マネジメント コースB	第1ユニット	10月12日（火）～10月15日（金）	24人
	第2ユニット	10月18日（月）～10月22日（金）	23人
	第3ユニット	10月25日（月）～10月28日（木）	17人
合計（のべ）			93人

各コース全ユニット受講者 Aコース：4人 Bコース：6人

定員は各ユニット 20 人（当初、各コースとも定員を超えていたが、台風 23 号による水害、新潟県中越地震の発生により直前にキャンセルがため、3コースで定員割れとなった。）

2 受講者の所属（実人数）

	府県	市町	政府 機関	ライフ ライン	その他	総計
兵庫県	1	11	2	1		15
近畿（兵庫県除）	3	11				14
東北地方		1				1
関東地方	4	3	3			10
中部地方	10	7				17
中国・四国地方	8	3	1			12
九州地方	3	4				7
総計	29	40	6	1		76
団体数	14	27	3	1		45

近畿地方・中部地方を中心に北は気仙沼市から南は熊本県まで全国各地から参加があった。また、府県職員、市町職員を中心として、国職員、ライフライン関係機関職員など幅広い団体から参加があった。

3 評価と課題

春期研修（5～6月に実施）に引き続き、高い評価を得た。

- ・研修に対する満足度の評価点数（100点満点）の平均は、91点であり、春期研修（同89.1点）に引き続き高い評価を得た。
- ・春期研修と同様に、阪神・淡路大震災時の経験者（行政、学者、市民、民間企業、ボランティア、弁護士）や、河田センター長をはじめとする幅広い情報を有する講師の講義が高い評価を得た。
- ・国の災害対策について、災害対応における本音の部分や最新の情報を交えた講義であったこと、充実した資料であったことから高い評価を得た。
- ・また、演習形式の研修やフィールドワーク、人と防災未来センターの展示部門の施設見学も春期研修同様好評であった。
- ・Aコース受講者から、「部下を持つ立場の者として、認識しておくべき事項が色々なカリキュラムに取り入れられており、大変有意義であった。」という意見があった。
- ・Bコース受講者から、「自然災害の発生のメカニズムや防災についての基礎知識を体系立てて学ぶことができた。」という意見があった。
- ・毎朝、その日の講義の位置づけを専任研究員（週担当）が解説したところ、「全体の流れを理解しやすかった。」との意見があった。
- ・講義の運営（センター職員の対応等）、受講者同士の交流が図れた点についても、概ね好意的に捉えられていた。
- ・一方、「ワークショップを増やして欲しい」「講義時間・意見交換時間が不足している」「理論も大事だが、そこに実務談が加わるとさらに良い」「最新の図上訓練の講義を行って欲しい」等の指摘があった。

4 今後の対応

当研修は、センターが開設した平成14年度以降、受講者ニーズを常に把握・反映しながら、3年間にわたり延べ586人の参加を得て計6回実施し、常に高い評価をいただいていた。また、国の中央防災会議等においても、防災関係者の資質の向上を図る研修として位置付けられており、当研修の方向性等は概ね妥当であると考えられる。

しかし、開始後3年を経過したいま、研修内容をより一層、効率の高い研修とするため、これまでの受講者の評価やニーズや社会的な要請を十分にふまえた上で、次年度にカリキュラムの見直しに着手する予定である。

（参考・別添）秋期コース・カリキュラム

台風による水害被害、新潟中越地震のためカリキュラムが一部変更

Aコース第1ユニット 災害時のマネジメント能力の向上

担当：専任研究員 平山修久

	11月8日(月)	11月9日(火)	11月10日(水)	11月11日(木)	11月12日(金)
10:00 ~ 11:30 1限		開講式 (9:45 ~ 10:00) 危機管理特論 河田恵昭 人と防災未来センター長 ・自然災害、人為災害を問わず現在懸念される各種リスクについての問題提起	初動対応論 (直後から3日まで) 秦康範 専任研究員 中地弘幸 神戸市消防局警防部警防課計画係長 ・直後における災害情報マネジメントのあり方について	応急対応論 (3日から1週間) 室崎益輝 上級研究員 ・自治体の応急対応期の対応のあり方について	初動対応論 (直後から3日まで) 甲斐達朗 上級研究員 ・災害現場の救急医療の状況と行政との関係について
12:45 ~ 14:15 2限		オリエンテーション 平山修久 専任研究員	初動期 :国の対応 加藤孝志 内閣官房副長官補 (安全保障・危機管理担当) 付参事官補佐 ・大規模災害時の国の対応方法と行動原理について	初動期 :国の対応 杉山利行 陸上自衛隊中部方面総監部防衛課長一等陸佐 ・災害発生からの行動原理と自治体との関係について	行政危機対応のトピック マスコミ 桃田武司 神戸新聞社経済部長 ・災害時のマスコミの行動原理と行政体制への見方について
14:30 ~ 16:00 3限		危機管理特論 遠藤勝裕 日本証券代行株式会社取締役社長 (当時日銀神戸支店長) ・自治体以外のトップの立場から見た災害対応の現場とその教訓について	センター展示施設見学 平山修久 専任研究員 ・阪神・淡路大震災の被害状況や発生した事象について、研究員の説明を交えて見学する	行政危機対応のトピック ライフライン 小倉晋 阪神水道企業団副企業長 (当時神戸市水道局技術部長) ・震災時のライフライン事業体の災害対応とその教訓について	危機管理特論 木戸洋二 阪神電気鉄道(株)西大阪線延伸推進室 部長 ・ライフライン企業のトップから見た災害対応の現場とその教訓について (16:15 ~ 17:45) 危機管理特論 貝原俊民 前兵庫県知事 ・震災経験を踏まえた自治体防災政策のあるべき姿について
16:30 ~ 18:00 4限		復旧復興論 (1週間 ~ 3ヶ月) 中林一樹 上級研究員 ・都市復旧、都市復興に関する計画について	討論会 平山修久 専任研究員 ・災害初動期に必要なとされる知識とは ・グループ討議	討論会 平山修久 専任研究員 ・災害初動期に必要なとされる知識とは ・発表会及び全体討議	(17:55 ~ 18:20) 閉講式

Aコース第2ユニット リスク軽減手法と防災政策

担当：専任研究員 伊藤ゆかり

	11月15日(月)	11月16日(火)	11月17日(水)	11月18日(木)	11月19日(金)
10:00~11:30 1限	開講式・オリエンテーション 伊藤ゆかり 専任研究員	意思決定能力向上のための手法展開 齋藤富雄 兵庫県副知事 山中茂樹 朝日新聞編集委員 伊藤ゆかり 専任研究員 ・災害に対する問題解決能力の向上にむけての手法 ・大規模災害発生時の限られた時間と情報の下で、災害対応責任者としての役割 ・危機状況に備えて、記者会見シミュレーションの実施	防災政策総論 河田恵昭 人と防災未来センター長 ・東南海・南海地震を見据えた長期的な視点に立った防災政策のあり方	⑨:30~11:30) ヒューマンエラーと危機管理 片岡昭 ANAラーニング ・リスク軽減手法としてのヒューマンエラーを考慮した危機対応を学ぶ	
12:45~14:15 2限	阪神・淡路大震災でのトップの対応 北村春江 前芦屋市長 ・阪神・淡路大震災時の対応におけるトップの対応とその課題と教訓		シナリオ型被害想定の実戦(防災訓練) 岩田孝仁 静岡県防災局防災管理室専門監 ・シナリオ型被害想定での防災訓練への活用と切迫する災害を想定した防災対策の紹介	災害と損害保険の役割 鈴木文明 日本損害保険協会 業務企画部第1グループリーダー ・自然災害からの立ち直りに欠かせない火災保険、地震保険の役割と公共性	
14:30~16:00 3限	シナリオ型被害想定概念(防災計画) 吉井博明 東京経済大学教授 ・シナリオ型被害想定と考え方や地域防災計画と被害想定	阪神・淡路大震災での対応(情報とニーズ) 山口一史 ひょうごまちくらし研究所常務理事(前ラジオ関西社長) ・震災時のメディアの役割と被害者のニーズの変化	災害対応能力の向上ワークショップ 矢守克也 京都大学防災研究所助教 伊藤ゆかり 専任研究員 ・災害ゲーム、グループ討議を行うワークショップ ・災害対応能力を養う	耐震改修促進へ向けた政策課題 林敏彦 上級研究員 永松伸吾 専任研究員 谷口要治 兵庫県建築指導課課長補佐 柳敏幸 静岡県防災情報室主幹 ・耐震補強を推進するための取り組みや課題について学ぶ	
16:30~18:00 4限	危機管理総論 林春男 上級研究員 ・わが国の危機管理の問題点 ・組織における危機管理能力向上のための方策				(17:30~18:00) 閉講式

Bコース第1ユニット 自然災害の現象理解と防災基礎

担当： 専任研究員 越村俊一

	10月11日(月)	10月12日(火)	10月13日(水)	10月14日(木)	10月15日(金)
10:00 11:30 1限		開講式・オリエンテーション 越村俊一 専任研究員	日本の災害史 伊藤和明 防災情報機構NPO法人 会長 ・日本の災害、被害の事例の歴史の変遷	都市巨大災害論 河田恵昭 人と防災未来センター長 ・都市巨大災害の変遷とこれからの都市防災、危機管理	災害情報システム特論 松岡昌志 地震防災フロンティア研究センターチームリーダー ・地震被害の軽減、発災後の対応のための防災情報技術
12:45 14:15 2限		(12:20~13:50) センター展示施設見学 越村俊一 専任研究員 ・語り部ボランティア(元行政職員)による震災時の対応状況及び展示の解説	風水害の発生メカニズムとその対応 戸田圭一 京都大学防災研究所 教授 ・風水害の発生メカニズムとその対応	防災論基礎 林春男 上級研究員 ・社会の防災力向上のために必要な考え方と実務上の捉え方	巨大災害発生時の交通 森津秀夫 上級研究員 ・巨大災害発生時の交通支障について
14:30 16:00 3限		地震発生のメカニズム 加藤照之 東京大学地震研究所 教授 ・プレート境界型巨大地震を主とした地震発生のメカニズムに関する基礎的知識	津波防災基礎論 越村俊一 専任研究員 ・我が国における津波防災の現状と今後の方向性	災害対策関連法・制度基礎 石井晴雄 内閣府企画官(防災総括担当) ・災害対策の法的な枠組みと実務	災害の予測と情報公開 塩路勝久 国土交通省河川局治水課都市河川室長 齋藤誠 気象庁地震火山部管理課即時地震情報調整官 ・災害情報の開示とその活用
16:30 18:00 4限		地球温暖化と災害 横木裕宗 茨城大学助教授 ・地球温暖化が災害に与える影響と、想定される新しい災害形態	土砂災害の事例と対策 沖村孝 上級研究員 ・土砂災害の事例と砂防対策事業	災害医療基礎 甲斐達郎 上級研究員 ・巨大災害発生時の広域災害医療の仕組み	(16:10~16:40) 閉講式

Bコース第2ユニット 災害対応と復旧・復興の課題

担当：専任研究員 永松 伸吾

	10月18日(月)	10月19日(火)	10月20日(水)	10月21日(木)	10月22日(金)
10:00-11:30 1限	開講式・オリエンテーション 永松伸吾 専任研究員	国の災害対策 西川智 内閣府参事官(災害予防担当)・我が国の防災体制の概略と内閣府の機能 ・被災者生活再建支援法について	被災者支援 公助のしくみ 喜田川典秀 厚生労働省社会・援護局保護課災害救助 救援対策室 災害救助専門官 ・災害救助法の概要と応急救助への考え方、取り組み	被災自治体の災害対策 (10:00-11:00) 長手務 神戸市理事・危機管理監 ・阪神・淡路大震災の経験と教訓を踏まえた取り組みと現在の防災体制について	(9:30-12:45) 被災者支援 共助のしくみ 立木茂雄 上級研究員 山本康史 ハローボランティア・ネットワークみえ代表 平野昌 ハローボランティア・ネットワークみえ事務局(三重県地域振興部東紀州活性化 地域振興プロジェクトグループ主幹) ・災害時におけるボランティア活動支援(ボランティアコーディネート等)
12:45-14:15 2限	(12:45-15:30) 防災未来館 見学 永松伸吾 専任研究員 ・展示の見学と解説、資料室見学	国の災害対策 下河内司 総務省消防庁防災課長 ・初動対応としての役割と危機管理体制への取り組み	(12:45-13:45) 産業とくらしの復興 小林郁雄 上級研究員 永松伸吾 専任研究員 ・しごと、くらし、いきがいを守るためには ・地域産業に内在する災害脆弱性とは	(11:15-12:15) 兵庫県災害医療センター 見学 大谷 博快 兵庫県災害医療センター 事務部長	
14:30-16:00 3限	(16:00-18:00) 阪神・淡路大震災の教訓 パネルディスカッション 専任研究員 ・阪神・淡路大震災から何を学ぶべきか ・レビュー 中核プロジェクト・大大特などの成果を踏まえて	都市復興 中林一樹 上級研究員 ・発災から復旧・復興過程の都市計画	行政と住民の連携： 2003水俣水害事例より 永松伸吾 専任研究員 福留邦洋 専任研究員 ・情報伝達、避難計画等に関する行政と住民の協働の必要性について	(13:30~16:00) 討論会 日野宗門 消防科学総合センター 研究開発部長 永松伸吾 専任研究員 ・過去の事例および実際に生起しうる状況での意思決定に関するディベート	(12:50~13:10) 閉講式
16:30-18:00 4限		都市復興 中林一樹 上級研究員 松谷春敏 岐阜市助役 ・阪神・淡路大震災における復旧・復興過程の都市計画(実務者との対談形式)	討論会事前準備 永松伸吾 専任研究員 ・翌日の討論会に向けて、グループ毎に準備を行う。	被災者支援 国際的支援のしくみ 大田孝治 独立行政法人国際協力機構 国際緊急援助隊事務局研修チーム チーム長 ・国際的な人道支援・緊急支援の枠組みについて	

Bコース第3ユニット

防災・減災の視点と手法

担当：専任研究員 菅 磨志保

	10月25日(月)	10月26日(火)	10月27日(水)	10月28日(木)	10月29日(金)
10:00 11:30 1限	開講式・オリエンテーション 菅 磨志保 専任研究員	平成16年10月23日新潟県中越地震、きたる東南海・南海地震・津波災害対策 越村 俊一 専任研究員 ・新潟県中越地震の概要 ・津波防災の現状と今後の方向性	国際防災論 北本 政行 アジア防災センター 所長 ・海外における都市の防災力向上に向けた取り組みについて	広域災害論 河田 恵昭 人と防災未来センター 長 ・広域災害時に想定される課題（広域連携など）と対策	
12:45 14:15 2限	(12:45～16:30) センター展示施設見学ワークショップ 菅 磨志保 専任研究員 ・展示施設を用いたワークショップ ・阪神・淡路大震災から何を学ぶか ・市民の視点から行政は何を行うべきか	資源動員体制 菅 磨志保 専任研究員 ・民間業者の地震対策事例を題材に、行政と民間の連携と課題	企業と地域防災 中村 俊夫 旧居留地連絡協議会防災委員 大内 博 (株)神崎高級工機製作所 永松 伸吾 専任研究員 ・被災地の企業による防災対策・防災まちづくりへの取り組みと課題	防災情報論 市川 啓一 (株)レスキュー・ドット・ネット代表取締役 ・産官学民の円滑な連携と災害救援活動に必要な情報の収集と発信	
14:30 16:00 3限		市民と防災：被災地に学ぶ防災地域づくり 神戸まちづくり研究所 ・震災後の地域防災施策と現在の状況 ・生活者の視点から見た防災施策の問題点の把握と今後の施策立案について、現地視察を通して学習	専門職能と被災者支援 阪神・淡路まちづくり支援機構 永井 幸寿 弁護士 西野 百合子 弁護士 外木場久雄 一級建築士 安田 捷 司法書士 ・被災地において各種専門家（建築・法律・税務など）の果たした役割について	実践的防災訓練 高橋 利豪 静岡県防災局緊急防災支援室 主査 ・実践で役に立つ訓練とは。どのような考え方に基いて企画・運営をしているのかについて	
16:30 18:00 4限	(17:00～19:00) ワークショップ発表会 松原 浩二 兵庫県復興企画課長 田中 保三 まち・コミュニケーション顧問 ・阪神・淡路大震災の経験と教訓をどう解釈するか			(16:00～16:30) 閉講式	